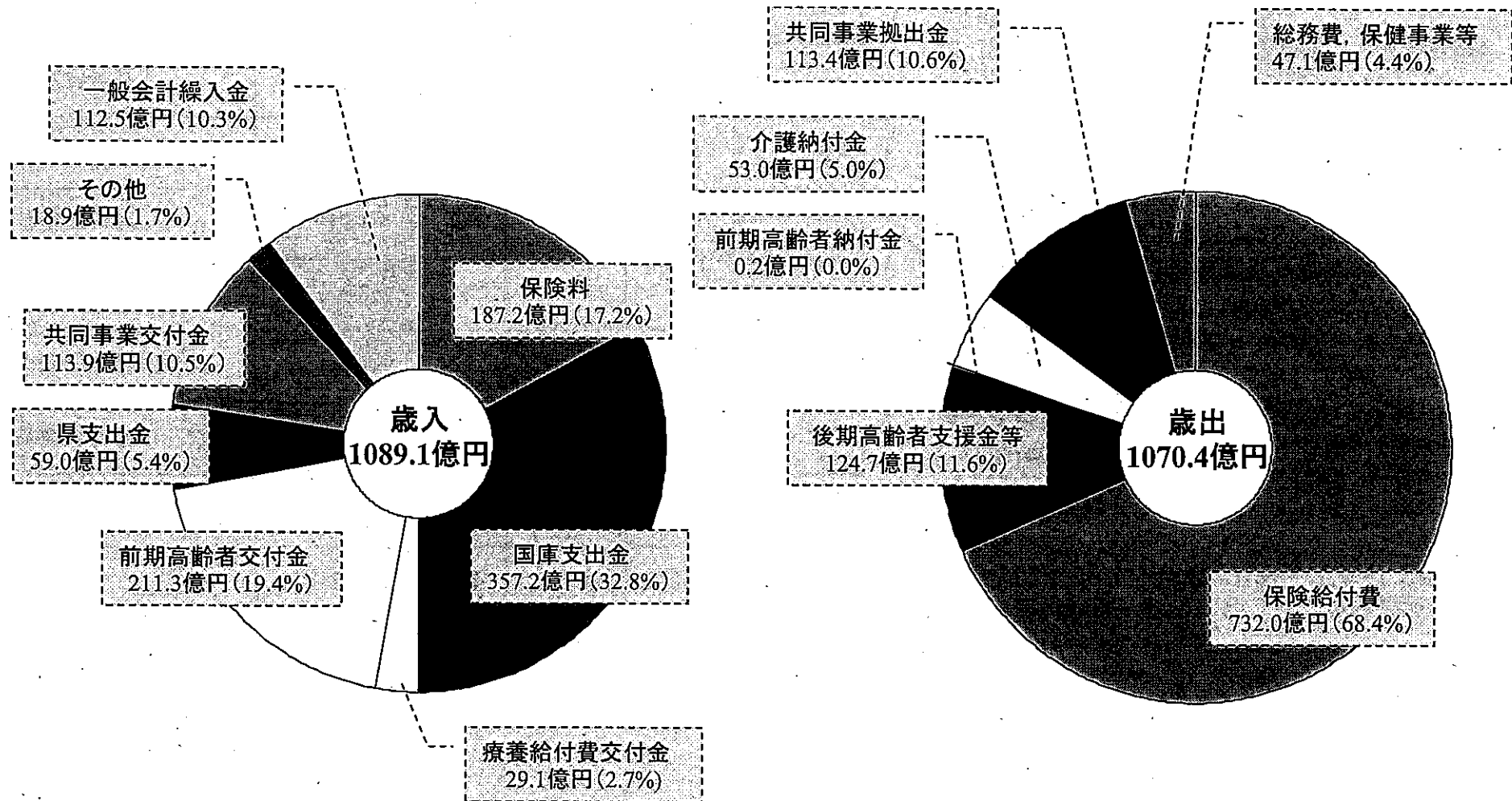


平成24年度
仙台市国民健康保険事業特別会計
決算(案)について

1 平成24年度決算について

- ① 歳入決算額1,089億1,322万円(前年度比108億6,378万円, 11.1%増)
歳出決算額1,070億3,551万円(前年度比107億5,099万円, 11.2%増)
歳入歳出収支 18億7,771万円
- ② 保険給付費 731億9,961万円(前年度比67億2,435万円, 10.1%増)
※一部負担金免除額 73億740万円(前年度比28億9,053万円, 65.4%増)
- ③ 被保険者数(4~3月平均)25万3,516人(前年度比2,773人, 1.1%減)
- ④ 一人あたり医療費 326,418円(前年度比26,582円, 8.9%増)
- ⑤ 保険料現年度収納率 87.61%(前年度比2.2ポイント増)

2 平成24年度決算国保財政の内訳



3 平成24年度歳出決算について

(単位:億円)

項目	H24			H23	H24-H23
	予算現額	決算額	不用額	決算額	増減額
総務費	16.6	15.9	0.7	16.2	▲ 0.3
保険給付費	744.4	732.0	12.4	664.7	67.3
後期高齢者支援金等	124.7	124.7	0.0	118.8	5.9
前期高齢者納付金	0.2	0.2	0.0	0.4	▲ 0.2
介護納付金	53.1	53.0	0.1	46.0	7.0
共同事業拠出金	115.8	113.4	2.4	97.1	16.3
保健事業費	10.7	9.5	1.2	9.4	0.1
その他	24.0	21.7	2.3	10.2	11.5
合計	1089.5	1070.4	19.1	962.8	107.6

○保険給付費は、震災に伴う一部負担金免除の影響等により、H23年度と比較して約67.3億円の増となった。

○介護納付金は、納付対象となる第2号被保険者数の増等により、H23年度と比較して約7.0億円の増となった。

○共同事業拠出金は、拠出対象医療費の増等により、H23年度と比較して約16.3億円の増となった。

○国庫支出金等の前年度超過交付額が増加したことにより、償還金が、H23年度と比較して約10.3億円の増となった。(償還金額：H23年度約8.7億円⇒H24年度約19.0億円)

4 平成24年度歳入決算について

(単位:億円)

項目	H24			H23	H24-H23
	予算現額	決算額	決算-予算	決算額	増減額
国民健康保険料	219.2	187.2	▲ 32.0	194.4	▲ 7.2
国庫支出金	324.6	357.2	32.6	352.5	4.7
療養給付費交付金	25.9	29.1	3.2	28.5	0.6
前期高齢者交付金	212.4	211.3	▲ 1.1	203.4	7.9
県支出金	57.5	59.0	1.5	39.2	19.8
共同事業交付金	112.5	113.9	1.4	97.2	16.7
その他	18.7	18.9	0.2	1.3	17.6
一般会計繰入金	118.7	112.5	▲ 6.2	64.0	48.5
合計	1089.5	1089.1	▲ 0.4	980.5	108.6

○国庫支出金は、補助対象給付費の増（震災に係る一部負担金免除等の影響）及び、超過交付によって、現予算に対して約32.6億円の増となった。

○県支出金は、震災に係る調整交付金等（保険料減免及び一部負担金免除）が増加したことにより、H23年度と比較して約19.8億円の増となった。

○共同事業交付金は、拠出対象医療費の増等により、H23年度と比較して16.7億円の増となった。

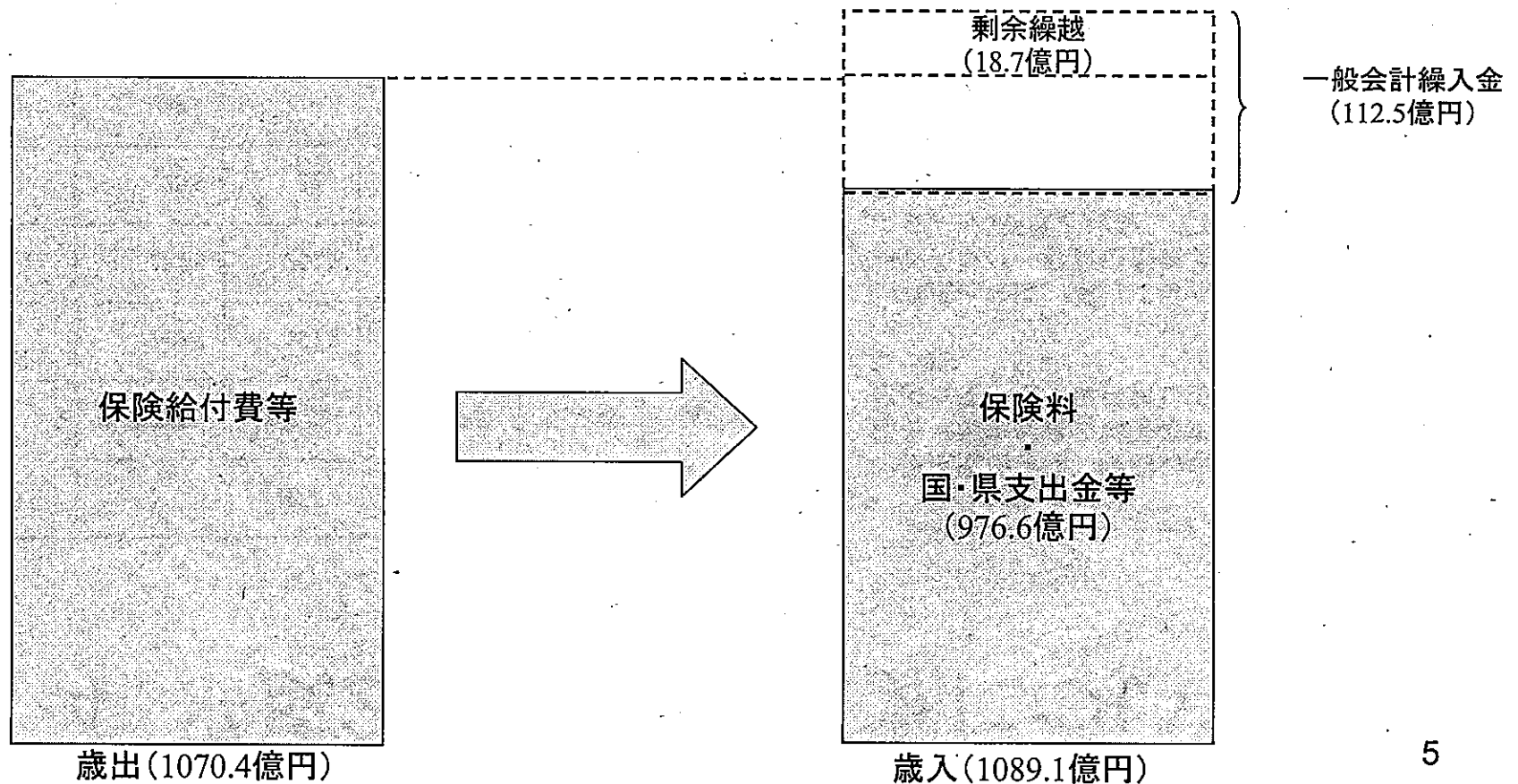
○繰越金（前年度超過交付された国庫支出金等の償還金に対する財源）の増により、H23年度と比較して約17.6億円の増となった。

○震災に係る国庫支出金等（保険料減免及び一部負担金免除への財政措置）の超過交付により一般会計繰入金が減少したH23年度と比較して、H24年度の一般会計繰入金は保険給付費の増の影響もあり、約48.5億円の増となった。

5 決算時の一般会計繰入金の考え方

保険給付費などの歳出額と、納付された保険料や交付を受けた国・県支出金などの歳入額の差として生じた不足額は、一般会計からの繰入金で収支を均衡させている。

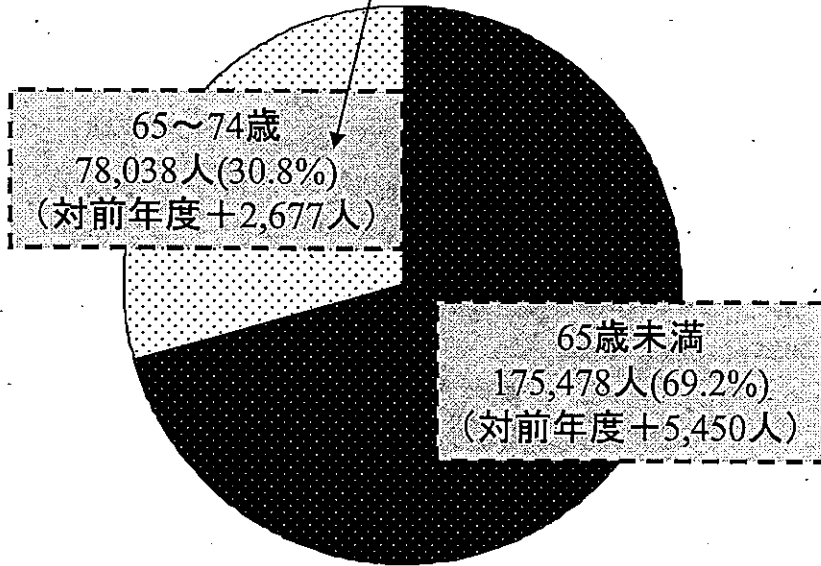
平成24年度決算においては、療養給付費等負担金等の翌年度精算分について剰余繰越をしている。



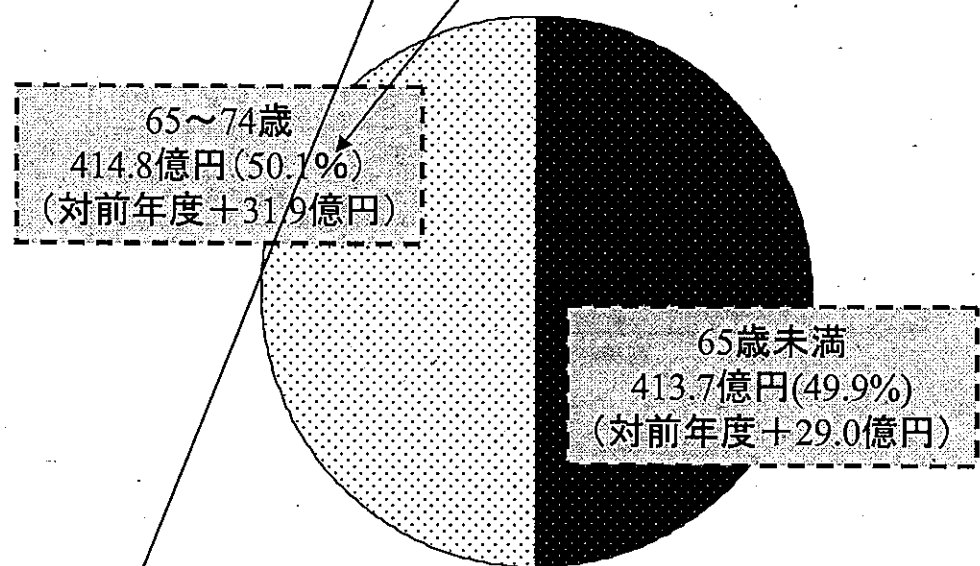
6 被保険者の年齢構成と医療費

被保険者数の30.8%を占める65～74歳の被保険者が、医療費では全体の50.1%を占めており、65歳未満の被保険者に比べ、一人あたりの医療費が2.3倍にもなっている。

被保険者数(4～3月平均)
253,516人(前年度比▲2,773人)



医療費(総計)
828.5億円(前年度比+60.9億円)



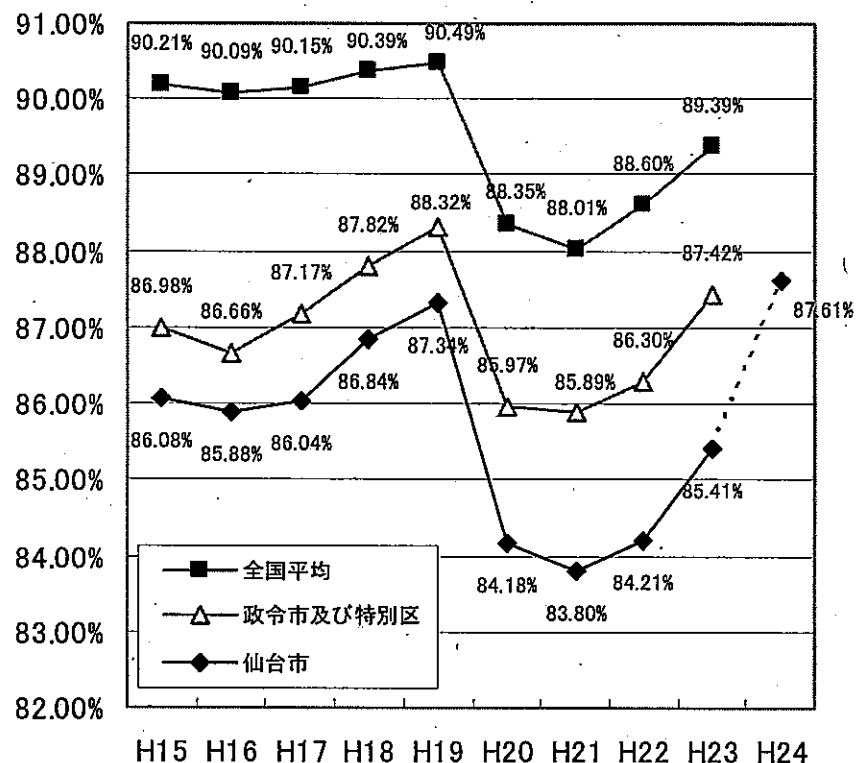
一人当たりの医療費

(単位:円)

	65～74歳	65歳未満	全体
H23	509,074	212,782	299,836
H24	533,384	234,997	326,418
増減率	4.8%	10.4%	8.9%

7 保険料収納率(現年度)の推移

24年度は徴収対策室を新設するなど徴収体制の強化を図ったことにより、2.20ポイントの増となった。



参考：政令市保険料収納率 (H24決算) ※速報値

順位	市名	収納率
1位	名古屋市	94.28%
2位	京都市	92.68%
3位	堺市	91.95%
4位	北九州市	91.86%
5位	神戸市	91.01%
6位	新潟市	90.73%
7位	札幌市	90.59%
8位	川崎市	90.02%
9位	横浜市	89.91%
10位	静岡市	89.65%

順位	市名	収納率
11位	千葉市	88.86%
12位	浜松市	88.06%
13位	岡山市	88.03%
14位	仙台市	87.61%
15位	熊本市	87.17%
16位	福岡市	87.08%
17位	さいたま市	87.00%
18位	広島市	86.88%
19位	相模原市	86.59%
20位	大阪市	85.33%

(資料)厚生労働省「国民健康保険(市町村)の財政状況について」

(参考資料)

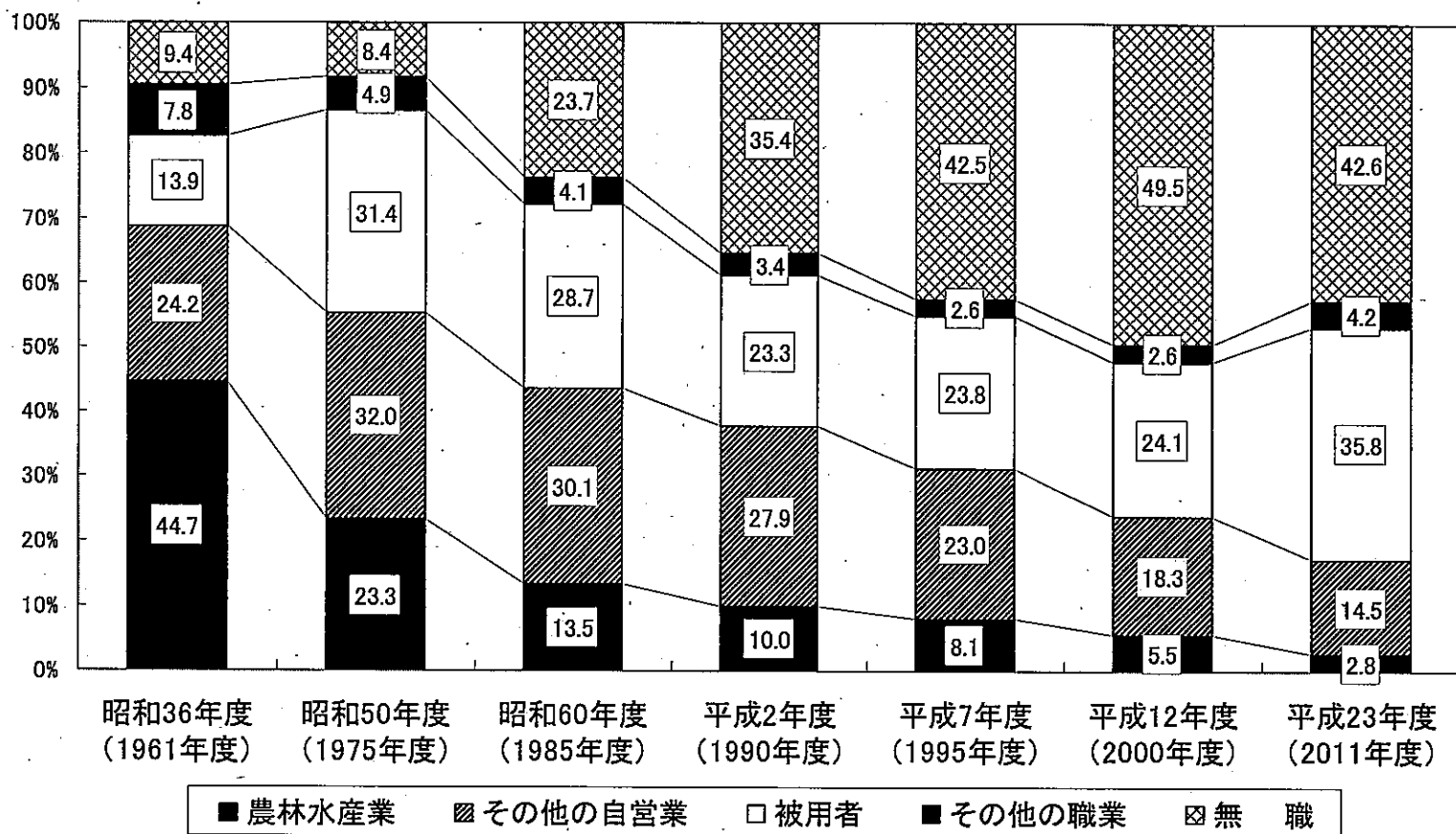
8 市町村国保の現状

- ①年齢構成が高く、医療費水準が高い
→65～74歳の割合：国保31.3%，健保組合2.6%
- ②所得水準が低い
→加入者一人当たり平均所得：国保84万円，健保組合195万円
- ③保険料負担が重い
→加入者一人当たり保険料/加入者一人当たり所得：国保9.7%，健保組合4.8%
- ④保険料(税)の収納率低下
→91.4%(平成11年度)⇒88.6%(平成22年度)
- ⑤一般会計繰入・繰上充用
→市町村による法定外繰入額：約4,000億円，繰上充用額：約1,800億円
- ⑥財政運営が不安定になるリスクの高い小規模保険者の存在
→1,723保険者中3,000人未満の小規模保険者 417(全体の1/4)
- ⑦市町村間の格差
→一人当たりの保険料の格差：最大2.8倍(長野県) 最小1.3倍(富山県)

(参考)平成25年3月1日 全国国民健康保険主管課(部)長会議資料

9 市町村世帯主の職業別世帯構成割合の推移

無職者42.6%+被用者35.8=78.4%
 市町村国保は、もはや自営業者のための制度ではなく、被用者保険等の加入者を除く、全ての者を被保険者とする公的医療保険制度であり、国民皆保険の最後の砦である。

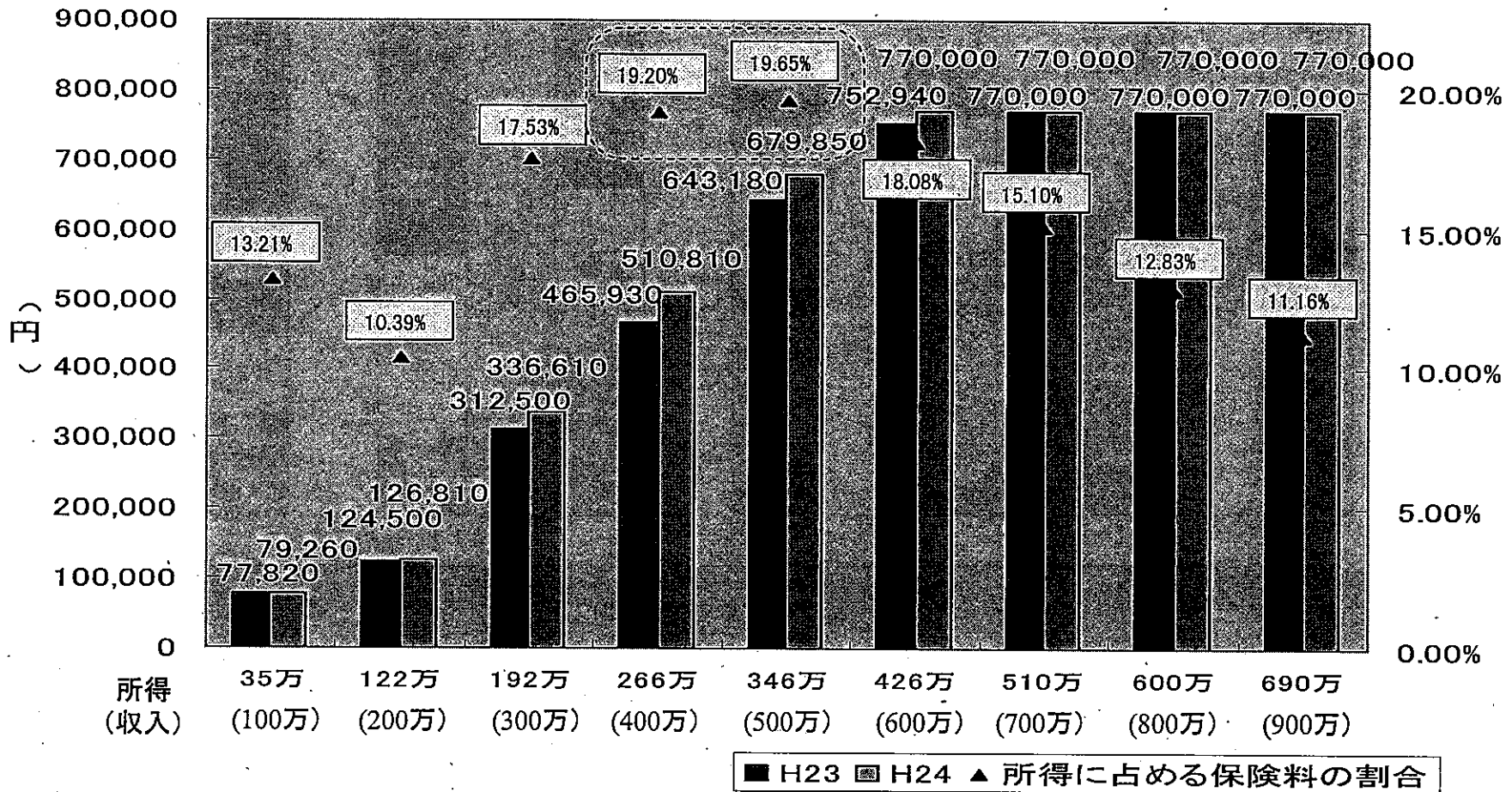


(資料)厚生労働省保険局「国民健康保険実態調査」

10 仙台市国保モデルケースによる保険料

※主45歳・妻43歳・子6歳の給与3人世帯の保険料をH23とH24で比較

年間所得300万円周辺の間所得層の所得に占める保険料の割合が大きくなっている。



注)H23～H24年度は77万円が賦課限度額(賦課できる保険料の上限額)となっており, ある一定の所得(収入)を超えると保険料は変わらない。